

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.313

2021.09/15 (水曜) 14:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778続報 K1特異推定終息時期に終息せず 現在認識が誤認の可能性明確 現在考え易いのは10月10日±3 発生の可能性

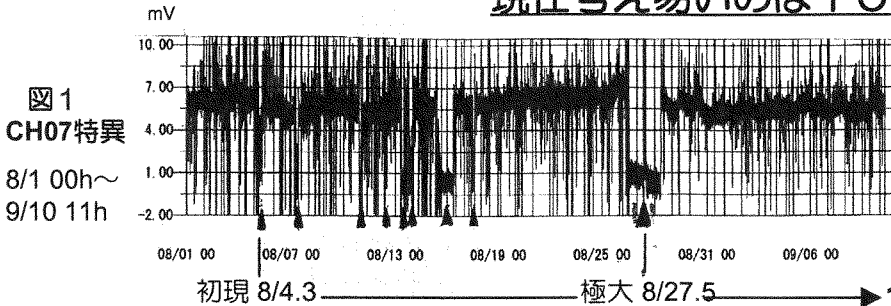


図1
CH07特異
8/1 00h~
9/10 11h

主極大・副極大型は誤認の可能性

前号ではCH07は主極大・副極大型の可能性で考えましたが、初現8/4.3、極大8/27.5とした前兆出現の可能性認識。

Tfap:Tmap=20:13経験則より、10月09日±3発生の可能性

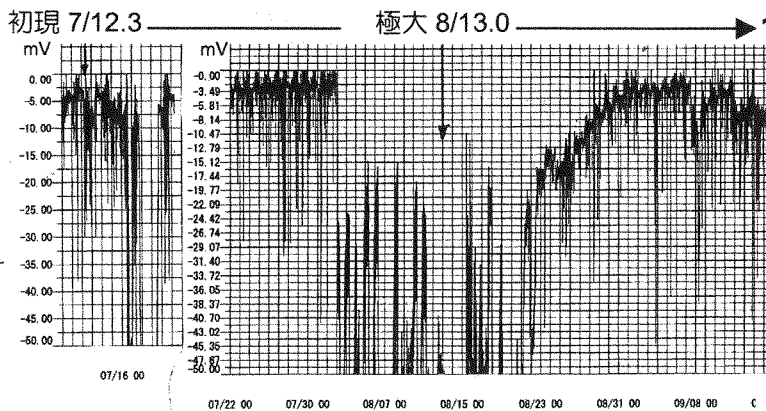


図2
K1特異
7/10 00h~
9/15 10h

極大時期誤認の可能性

上のとおり、CH07からは10/9±3発生の可能性が示唆され、K1特異の初現は、前の調査で左波形のとおり、7/12.3が初現と認識されます。この場合、以前までの8/7.5極大では整合しません。前兆変動が初現～極大：極大～終息=2.1：2.9比率である経験則をK1特異の大きな変動部に当てはめると、極大時期は8/13±となります。初現7/12.3、極大8/13.0としますと10/10±3発生の可能性となります。この場合は、9/25頃に終息の可能性。

前号では9/23±3発生の可能性を報告致しました。しかし、その場合は9/15までにはK1特異が終息することが計算されました。現状は上図2のとおり、本日9/15午前の段階で通常基線電圧値に復帰しておらず、変動も大きい状態です。また八ヶ岳のCH07を前号では主・副極大型前兆の可能性として計算致しました。この認識が正しい場合には、副極大が緩やかに見えますので、Tmap:Tps=3.7:1より明らかに3:1近似で無ければ経験則と調和致しません。現状ではCH07の主・副極大型の認識は明らかに誤認であることとなります。CH07では基線から下側への変動の初現は8/4.3です。単純に8/4.3初現で一番大きな変動8/27.5を極大として計算しますと、10/9±3発生の可能性が計算できます。この場合、高知観測点K1の初現7/12.3からは極大時期を誤認している可能性となります。上図2右側記のとおり、改めて極大認識しますと、8/13.0±極大の可能性と認識され、初現7/12.3、極大8/13.0となり、10/10±3発生の可能性が示唆されます。これが正しい場合はK1特異前兆変動は9/25頃に終息することが計算されますので、今月に終息が観測されるか慎重に観測を続け続報で報告させていただきます。CH7は殆ど変動が見られず不明ですが、CH29は8/8極大認識で、変動が極めて少ないですが9/23~24に終息が計算されますので、合わせて観測します。前兆変動の認識を誤認したことで、発生時期推定に修正が必要となりましたことを深くお詫び申し上げます。

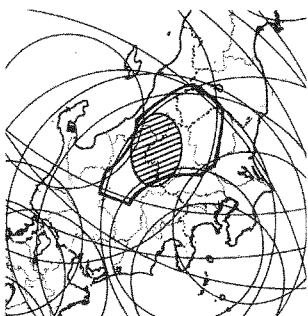


図3 推定領域図

- ◆推定領域：図3太線内領域内・斜線域参考推定領域
斜線参考域=浅間山・白根山等火山近傍領域
- ◆推定規模：M8.0±0.3
(近傍火山活動活発化の可能性も有るが不明)
- ◆推定時期：10月10日±3日 今後の観測で修正
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：複数BT=AM 9:00±2 (CH34BT重視= AM 7:00±3)
または複数BT=PM 6:00±2 (CH34BT重視= PM 6:30±2)

C) Copyright 2021 YSBO 八ヶ岳南麓天文台